# 令和 7 年度　東京都内湾水生生物調査　5 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 7 年 5 月 14 日に稚魚調査を実施した。天気は概ね曇り、気温は 22.2～26.4℃、調査地点の風は北東のち南から南南東、風速 0.8～3.5m であった。調査当日は大潮で、干潮は 11 時 47 分、満潮は 18 時 40 分であった（気象庁のデータ）。また、いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

全調査地点においてハゼ科が多く出現し、各地点ともにマハゼが優占していた。

| | お台場海浜公園 | 森ヶ崎の鼻 | 葛西人工渚 |
|---|---|---|---|
| 調査時刻 | 8:35-9:55 | 10:35-11:45 | 14:11-15:30 |
| 水温(℃) | 20.1 | 23.1 | 24.0 |
| 塩分(－) | 20.4 | 14.9 | 0.2 |
| 透視度(cm) | 60 | 44 | 60 |
| DO(mg/L) | 9.7 | 7.3 | 7.5 |
| DO 飽和度(%) | 93.7 | 88.4 | 90.9 |
| 波浪(m) | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| pH(－) | 8.1 | 7.4 | 7.7 |
| 水の臭気 | 無臭 | 無臭 | 無臭 |
| 備考 | なし | 干潟が広範囲に見られた。 | 塩分濃度が低かった。 |

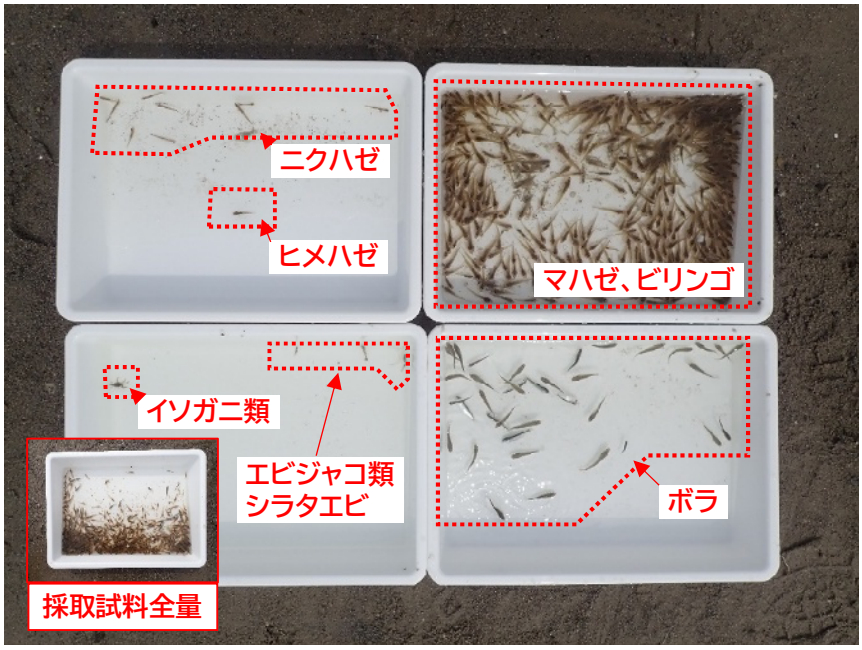
●主な出現種等（速報のため種名は未確定）

| 主な出現種等 | お台場海浜公園 | 森ヶ崎の鼻 | 葛西人工渚 |
|---|---|---|---|
| 魚類（多い順*） | マハゼ(m) | マハゼ(m) | マハゼ(c) |
| | ビリンゴ(c) | ビリンゴ(c) | ビリンゴ(+) |
| | ボラ(c) | アシシロハゼ(c) | ボラ(+) |
| | ニクハゼ(+) | ボラ(c) | アシシロハゼ(+) |
| | アシシロハゼ(r) | | |
| 魚類以外 | エビジャコ属(r) | エビジャコ属(c) | シラタエビ(+) |
| | シラタエビ属(r) | シラタエビ(+) | エビジャコ属(r) |
| | イソガニ類(r) | | |
| 備考 | 他にハゼ科、ヒメハゼ等が採集された。 | 他にスズキ、ハゼ科、ヒモハゼ等が採集された。 | 他にテナガエビ類、エドハゼ、ニクハゼ等が採集された。 |

*）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G：1000 個体以上、m：100～1000 個体未満、c：20～100 個体未満、+：5～20 個体未満、r：5 個体未満

# お台場海浜公園　採取試料



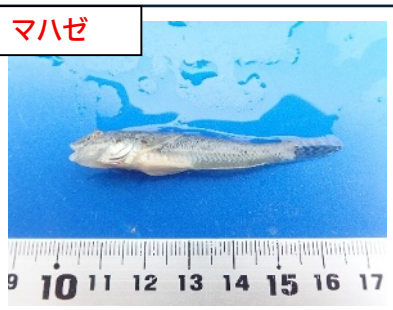
調査地点の様子

調査の様子

水際から数mで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

## マハゼ



河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

## ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。

## ニクハゼ

東京湾に出現するハゼ科のうち、高塩分の環境を好む種。アマモやアオサが繁茂するやや静穏な海域で見られることが多い。体長 2cm ほどになるまでは、体色が肉色をしており、その名の由来となっている。

## ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

## ヒメハゼ

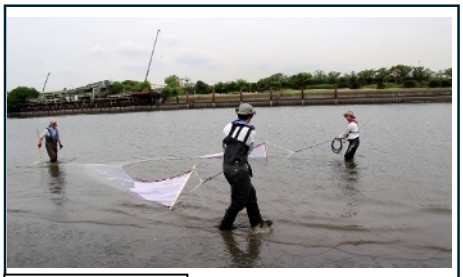
内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は 5 月から 9 月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。下顎が上顎より突出しているのがヒメハゼの特徴。

## シラタエビ

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

# 森ヶ崎の鼻　採取試料

調査地点の様子



調査の様子

羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

## マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

## ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。

## エドハゼ

湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地引網で採集されにくい。

## ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

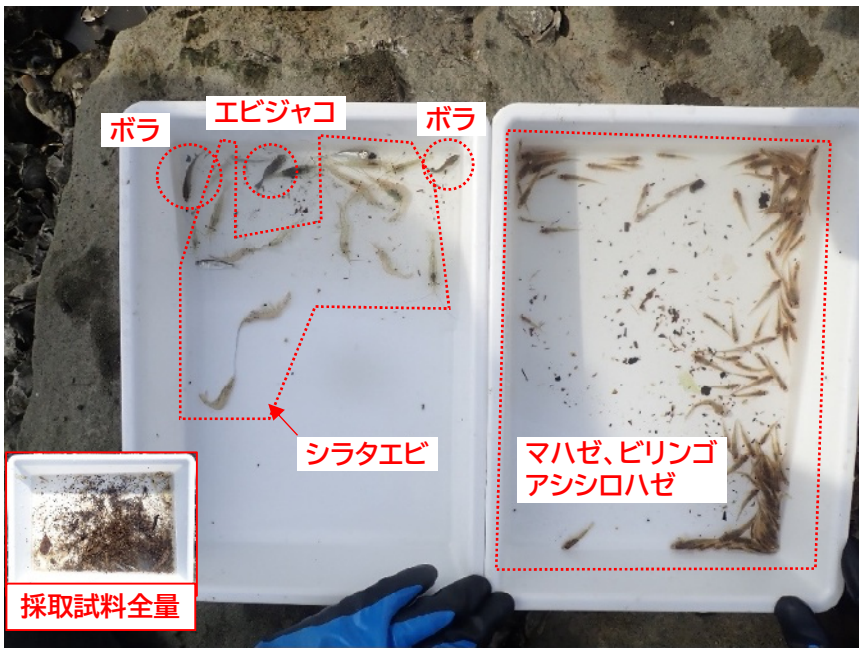
## ヒメハゼ

体はミミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。全長4cm ほど。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。

## スズキ

湾奥から外湾にかけて様々な場所で見られる。仔魚は沖での浮遊生活後に沿岸に向けて接岸回遊をする。内湾の干潟域や人工海浜でハゼ科の稚魚や甲殻類等を食べ、急速に成長する。

# 葛西人工渚　採取試料



調査地点の様子

調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

## マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

## ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。

## ニクハゼ

東京湾に出現するハゼ科のうち、高塩分の環境を好む種。アマモやアオサが繁茂するやや静穏な海域で見られることが多い。体長 2cm ほどになるまでは、体色が肉色をしており、その名の由来となっている。

## アシシロハゼ

鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる

## ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

## エビジャコ属

稚魚等を捕食する小型甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる